

会 議 録

会議の名称		令和 6 年度つくば市障害者自立支援協議会第 1 回こども部会			
開催日時		令和 6 年 7 月 25 日(木) 9 時 30 分～11 時			
開催場所		つくば市役所 2 階 会議室 205・206			
事務局（担当課）		福祉部障害者地域支援室			
出席者	委員	根本希美子、金森裕輔、村上隆浩、篠崎純一、原口朋子、吉田真一、飯島弥生、新谷幹英、中島澄枝、枝松慎次郎			
	その他				
	事務局	岡田課長、吉村統括、飯田係長 福田室長、高谷主査、荻谷（拠点コーディネーター）			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1 名	
非公開の場合はその理由					
議題		・つくば特別支援学校 地域支援センターの活動について ・障害児サービス事業所連絡会の開催について			
会議録署名人			確定年月日	年 月 日	
会議次第	1 開会	2 副座長あいさつ			
	3 協議事項	4 その他			
	5 閉会				
〈審議内容〉 1 開会 （事務局）：福田 定刻となりましたので、「令和 6 年度つくば市障害者自立支援協議会第 1 回こども部会」を開会いたします。					

本日は、公私共にお忙しい中、全体会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

2 あいさつ

(事務局)：福田

開会にあたりまして、飯島部会長代理より挨拶を申し上げます。

(飯島部会長代理)

プロジェクトで対応してきた福祉の店が、「融点」としてオープンしました。数年かかると思うが、児童の事業所連絡会も協議して、仕組みとして行っていければよいと思っています。本日はよろしくお願いします。

(事務局)：福田

飯島部会長代理ありがとうございました。

3 協議事項

(事務局)：福田

続きまして次第3「協議事項」に入らせていただきます。

つくば市障害者自立支援協議会設置要項の「第5条第3項 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。」こととなっておりますので、これからの会の進行につきまして、飯島座長代理、よろしくお願いします。

(飯島部会長代理)

それでは始めさせていただきます。内容に入ります前に、市政運営の透明性の向上を図るということを目的とする「つくば市会議の公開に関する指針」によりつくば市自立支援協議会を公開とします。ご賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

—拍手—

ありがとうございます。最初に、事務局より本日の資料の確認をお願いいた

します。

(事務局) : 福田

はい、事務局からお手元の資料について確認いたします。

(資料)

① 本日の次第

② 資料 1 特別支援学校センター的機能の役割と実際

③ 資料 2 障害児サービス事業所連絡会の開催について

④ 資料 2 別紙 アンケート集計結果について

以上を御準備させていただいておりますが、不足等ございませんでしょうか。配布資料については以上です。

(飯島部会長代理)

それでは協議事項の内容に入りたいと思います。

茨城県立つくば特別支援学校 地域支援センター 新谷幹英委員より①「つくば特別支援学校 地域支援センターの活動について」ご講義いただきます。新谷委員よろしくお願いします。

(新谷委員)

—資料に沿って説明—

(飯島部会長代理)

ありがとうございます。何かご意見等はございますか。

(枝松委員)

センターとしてはどこまで動けますか。

(新谷委員)

教育機関で行なわれてきているので、事業所からの相談等は受けていません。文章として事業所と連携して下さい。という案内はきています。

(枝松委員)

カラーズでも学校との協力が必要と感じています。

例えば、大学入試で困っている時の対応など。センター試験はそれぞれのセ

ンターで、私立は直接受験する学校に連絡をするようになど、わかる範囲で答えている状況があります。

(金森委員：プロジェクトメンバー)

連絡する人は誰なのか。コーディネーターか校長先生か、教育委員会か。どのような内容ならよいのかを考えて連絡。内容にもよるが、今までで断られたことはないです。

(篠崎委員：プロジェクトメンバー)

相談としてコロナ禍では0件でしたが、その後相談件数は増えているようですが同じ学校に数回行く場合もありますか。

(新谷委員)

増えたらよいと思っていますが、コーディネーターは2人。その他兼務で10名いますが、兼務の職員は出られないのが現状です。対外的なことは私がほとんど行っています。場合によっては数回行くこともあります。

(飯島部会長代理)

病院から訪問するときに10年前は嫌がられました。センターの先生に協力していただければスムーズだったかと思いました。

(新谷委員)

チームでの対応が良いと思います。病院でのケース会議から参加する場合があります。

(飯島部会長代理)

教育関係者からの相談がメインになりますか。

(新谷委員)

学校からPT等の派遣を依頼される場合もあります。学校でアドバイスをもらってもPTの指導とは同じようには出来ない。学校のメニューに置き換えて、もう一度安全性等を確認してから対応するしかない。結構医療と教育との壁が大きく感じています。

(飯島部会長代理)

教育現場がわからないでリハビリで参加していた時もありました。制度的にも医療の協力がしづらいついて感じていました。

他に、根本委員いかがですか。

(根本委員)

各学校のセンターで対応が違ってくると思いますが、各センターとの連携はありますか。

(新谷委員)

年3回全県で研修を行います。県南地区での勉強会も行っています、

(根本委員)

本来は支援学校に行きたいけど、学区が違っていききたい学校にいけない理由で、普通学校に通っている方もいます。

(新谷委員)

支援学校に対する相談なら柔軟に相談を受けたいと思っていますので相談してください。

(飯島部会長代理)

次の説明を事務局からお願いします。

(事務局)：高谷

はい。では高谷の方から説明をさせていただきます。

本日お配りしました資料2と資料2の別紙をご用意ください。

障害児サービス事業連絡会の開催についてということで、設置検討の経緯を説明します。令和5年度の第1回のこども部会の方で、関係機関と連携等に困難を感じることにについて協議をしました。その中で連絡、連携強化を目的とした連絡会を設置してみてもどうかということで、ご意見をいただいていた。さらに、昨年度各事業所にアンケート調査を実施させてもらいました。そちらが資料2の別紙になっております。それらを踏まえて、事務局とプロジェクト

メンバーで検討した結果、連絡会を設置していきたいと思っております。開催頻度としましては、年3回の午前中を予定しています。設置時期としては今年度9月から設置したいと思っております。対象事業所は児童発達支援事業所、放課後等デイサービスの事業所です。内容としてしましては第1回の9月は、障害福祉サービス等の報酬改定についてと、グループワークでは、今後連絡会でやってみたいことなどを出していただけたらと思っております。第2回は1月または2月を予定しており、内容については随時事務局として、アンケートをもとに検討していきたいと思っております。連絡会は、基本的には対面で開催し、勉強会を開催の場合はオンライン等も検討しています。

(飯島部会長代理)

今の説明に対しご意見等がありますか。

(枝松委員)

事業所連絡会の対象者はどこまでですか。参加できますか。

(篠崎委員：プロジェクトメンバー)

最初は児童発達支援事業所と放課後等デイサービス事業所にさせていただいて、内容によって対応していきたいと思っております。

(飯島部会長代理)

連絡会を始めてみて、次のステップとしては他の事業所の方との連携も検討していけると思います。

ほかにご意見等がなければこれで、閉会とさせていただきます。

—閉会—

令和6年度つくば市障害者自立支援協議会
第1回 こども部会（専門部会1） 次第

日 時 令和6年7月25日(木)

9時30分～11時

場 所 つくば市役所 会議室 205・206

1 開 会

2 副座長あいさつ

3 協議事項

- ① つくば特別支援学校 地域支援センターの活動について
- ② 障害児サービス事業所連絡会の開催について

4 その他

5 閉 会

特別支援学校センター的機能の 役割と実際

茨城県立つくば特別支援学校
地域支援センター
新谷幹英

tsukuba ibaraki 茨城県立つくば特別支援学校 地域支援センター tsukuba ibaraki

1 特別支援学校のセンター的機能とは
センター的機能の役割を果たすため、学校に「地域支援センター」の分掌を設け、地域の特別支援教育に関するさまざまなニーズに対応しています。



tsukuba ibaraki 茨城県立つくば特別支援学校 地域支援センター tsukuba ibaraki

2 特別支援学校の6つのセンター的機能

- ①小・中学校等教員への支援
- ②特別支援教育に関する相談・情報提供
- ③障害のある幼児児童生徒への指導・支援
- ④福祉・医療・労働関係機関等との連絡・調整
- ⑤小・中学校等教員に対する研修協力
- ⑥施設設備・教材教具の提供

tsukuba ibaraki 茨城県立つくば特別支援学校 地域支援センター tsukuba ibaraki

3 巡回相談

本校の巡回相談員が、教員や保護者等の要請に応じて、障害のある児童等の教育に関する助言、指導、情報提供等を行います。



つくば特別支援学校
地域支援センター

← 来校相談

出向き相談
研修会
貸出し



学校・教員



保護者



tsukuba ibaraki 茨城県立つくば特別支援学校 地域支援センター tsukuba ibaraki

3 巡回相談

(1) 来校相談

学校見学(就学や転学を検討している人)

- ・校内施設
- ・授業見学
- ・体験学習(授業の体験)



教育相談

- ・発達に関すること
- ・学校生活に関すること など



3 巡回相談

(2) 出向き相談

- ・幼児児童生徒の観察をして、指導支援、環境調整、園や校内の体制などの助言を行う。

巡回相談の実績(令和5年度)

(件数)	幼稚園	保育園	就学前	小学校	中学校	高等学校	合計
出向き相談	5	20	0	24	9	14	72
学校見学	1	2	10	32	13	1	59
研修会	1	1	0	3	0	0	5
合計	7	23	10	59	22	15	136

※電話相談(4件)、延べ人数(536人)



3 巡回相談

(2) 出向き相談

主な相談内容

- ・指示が通らない、場面の切り替えが難しい(幼稚園、保育園)
- ・離席が多い、学習に集中できない、注目を集める行為をする(小学校)
- ・友達に手が出る、学力差が大きい、学校に来れなくなった(中学校)
- ・進度が早く板書が難しい、学校行事への参加(高校)

3 巡回相談

(2) 出向き相談

主な助言内容(巡回相談のポイント)

- ・発達障害への支援：一番困っているのは本人、本人の気持ちや意思の推測と尊重、居場所と役割の重要性、視覚支援とトークン、過敏への理解、ストロングポイントを生かしウィークポイントを支援
- ・全体とは別の個人目標の設定：達成可能な目標、「よくがんばったね」と称賛で終われる取組
- ・根拠に基づいた支援：WISC検査結果分析、感覚統合、応用行動分析等の活用
- ・保護者対応：家族の状況や養育の仕方の把握

3 巡回相談

(3) 研修会

今年度の研修テーマ

- ・ 感覚統合の理論と実践
- ・ 個別の教育諸計画の作成と活用
- ・ 発達検査や知能検査の結果の見方
- ・ 通常学級での発達障害支援
- ・ 進行性疾患への対応方法
- ・ 言語の役割と意義
- ・ 医療的ケアと食事指導



3 巡回相談

(4) 貸出し

校内の施設設備の貸し出し

- ・ 体育館やグラウンド等の校内施設の利用
- 教材教具の貸し出し

- ・ 本校ホームページの「教材データベース」で紹介

※事前の物品確認と学校施設設備借用願の提出を依頼



4 ご案内

茨城県立つくば特別支援学校



巡回相談の申込方法

- ・ ホームページ>地域支援センター>申込フォームに入力
- ・ 学校電話

茨城県立つくば特別支援学校



おわり

障害児サービス事業所連絡会の開催について

○設置検討の経緯

- ・令和 5 年度第 1 回 こども部会で「関係機関と連携で困難と覚じること」について協議。
- ・事業所にとって、医療機関、学校、専門的な支援機関等がどのような役割があるか情報が少なく、どのような連携をしていいわからない。
- ・事例検討、課題共有、情報交換など事業所同士の連携強化を目的とした連絡会を設置してみてもどうか。

○プロジェクト会議の構成

メンバー：

飯島委員、金森委員、篠崎委員、原口委員、武田委員、吉田委員

○アンケート調査の実施

- ・連絡会のニーズ把握、開催内容等の参考にするため市内障害児サービス事業所を対象にアンケートを実施。
- ・集計内容については別紙参照。

○連絡会設置案

名称	障害児サービス事業所連絡会
事務局	こども部会プロジェクト会議
開催頻度	年 3 回、午前中に開催。
設置時期	令和 6 年 9 月から設置
対象事業所	児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所
内容	第 1 回（9 月） 障害福祉サービス等報酬改定について GW：今後、連絡会でやってみたいこと 第 2 回（1 月または 2 月） 未定 ※内容については随時事務局でアンケートをもとに検討。
その他	基本は直接対面で開催し、勉強会を開催の場合はオンライン開催など連絡会の内容によって開催方式を変更する。

アンケート集計結果について

【対象事業所】

- ・市内児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所 54 カ所

【集計内容】 回答事業所数 34 事業所

① 連絡会の参加希望について

- ・希望する：33 カ所
- ・希望しない：1 カ所

② 連絡会でやってほしいこと（複数回答あり）

- ・報酬改定、制度改定等：28 カ所
- ・事例検討：12 カ所
- ・講師等による勉強会：5 カ所
- ・その他御意見
 - 不正請求防止に関すること
 - 虐待防止に関する指導
 - 災害時に各事業所どのような対策をするのか具体的な話し合いをしたい
 - 不登校児童の対応について
 - 相談支援員との情報交換の場
 - 安全計画の策定に関すること

③ 開催頻度について（複数回答あり）

- ・2 カ月に 1 回：7 カ所
- ・3 カ月に 1 回：11 カ所
- ・6 カ月に 1 回：12 カ所
- ・1 年に 1 回：4 カ所

④ 開催の時間帯

- ・午前：26 カ所
- ・午後：6 カ所
- ・夕方 17 時以降：2 カ所

⑤ 開催方法について

- ・オンライン開催希望：6 カ所
- ・会場での対面開催希望：8 カ所

資料2（別紙）

- ・どちらでも可：10 カ所

- ・その他御意見

（講師等の勉強会は ZOOM を希望。それ以外は対面がいいのでは。）

⑥ 連絡会の構成について

- ・放デイ、児発など種別ごとに分けて開催：14 カ所

- ・全体を集めて開催：20 カ所

⑦ その他業務や支援において困っていること、共有したいことなど（自由記述）

- ・急なキャンセルの対応（特に医ケア児の場合、病状悪化によるキャンセルや長期的なリハ入院による欠席が多く、スタッフ（特に看護師）の配置がとても困難。）
- ・市への報告事項（契約、解など）、提出物の内容について詳細を一覧があったらうれしい
- ・他療育の事業所がどんなことをしているか、各放デイ事業所の強みを共有したい
- ・経営者が集まり意見交換会を行い、つくば市に経営者の考えを把握できるいい機会にしてほしい
- ・利用者が併用して通所している事業所との共通支援を図れたらよいと思う。
- ・災害が起こった場合、どんな対策や備蓄品などを用意しているか
- ・地域交流や他事業所、保育園等の交流を行っているか共有したい
- ・不登校児童の放課後デイ参加・暴力的な行動のある児童への対応など他事業所の意見を聞きたい
- ・BCP や虐待防止、感染対策などの勉強会でつくば市の事業所全体をレベルアップしたい
- ・災害時に事業所同士の協力体制を構築したい
- ・今後の制度改定へ向けて事業所同士で対策を立てたい
- ・利用者が利用申し込みをした経緯を共有したい
- ・放課後等デイサービスにおける特別支援学校の送迎方法（人員や所要時間等）について情報交換したい
- ・地域との関わり方を他事業所はどのようにすすめているか
- ・療育の質の向上をしていくにはどうすればいいか
- ・幼児～小学生、小学生～中学等のライフステージの切り替え時にそれまで家庭や学校・療育機関で行った支援の具体的な内容等について共有されにくく又活用されにくいという問題について今後どう対応していくか。

以上

会 議 録

会議の名称		令和6年度つくば市障害者自立支援協議会第2回こども部会		
開催日時		令和7年2月5日(水) 9時30分～11時30分		
開催場所		つくば市役所 5階 会議室 501		
事務局（担当課）		福祉部障害者地域支援室		
出席者	委員	根本希美子、金森祐輔、村上隆浩、井坂美津子、篠崎純一 武田真浩、原口朋子、吉田真一、飯島弥生、新谷幹英、 中島澄枝、枝松慎次郎		
	その他			
	事務局	福田室長、吉村統括、高谷主査、荻谷（拠点コーディネーター）		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	2名
非公開の場合はその理由				
議題		・「支援につながっていない子どもの支援について～話題提供～」 ・障害児サービス事業所連絡会の開催について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 3 協議事項 5 その他 2 副座長あいさつ 4 報告事項 6 閉会			
〈審議内容〉				

1 開会

(事務局) : 福田

定刻となりましたので、「令和6年度つくば市障害者自立支援協議会第2回こども部会」を開会いたします。本日は、公私共に忙しい中、全体会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

2 あいさつ

(事務局) : 福田

開会にあたりまして、飯島副座長より挨拶を申し上げます。

(飯島副座長)

皆様おはようございます。

すっかりもう年度末になりまして皆さんもご多忙のところと思いますが、今日は今まで協議することが、あまりなかったなと思うのですが、年度初めに皆さんからいろいろご意見いただいた中で、子供っていうことでいつもどうしても小さいお子さんのばかりに協議が集中していたところもあったのですが、今日は、中学校卒業後とかその辺りの現状を皆さんから改めて意見を伺い協議いただき、課題などが見つけていけるといいなと思っておりますので、どうぞ今日もよろしくお願いいたします。

(事務局) : 福田

飯島副座長ありがとうございました。

3 協議事項

(事務局) : 福田

続きまして次第3「協議事項」に入らせていただきます。

つくば市障害者自立支援協議会設置要綱の「第5条第3項 副座長は座長を補佐し、座長に事故があるときはその職務を代理する」こととなっておりますので、これからの会の進行につきまして、飯島副座長よろしくお願いいたします。

(飯島副座長)

それでは始めさせていただきます。内容に入ります前に、市政運営の透明性の向上を図るということを目的とする「つくば市会議の公開に関する指針」によりつくば市自立支援協議会を公開とします。ご賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

—拍手—

ありがとうございます。最初に、事務局より本日の資料の確認をお願いいたします。

(事務局)：福田

はい。事務局からお手元のお資料について確認します。

資料

- ① 本日の次第
- ② 資料1 支援につながらない子どもへの支援について
- ③ 資料2 令和6年度第1回つくば市障害児サービス事業所連絡会アンケートまとめ

以上を御準備させていただいておりますが、不足等ございませんでしょうか。配布資料については以上です。

(飯島副座長)

それでは協議事項の内容に入りたいと思います。

カラーズつくば 枝松委員より「支援につながらない子どもの支援について」話題提供いただきます。枝松委員よろしくお願いします。

(枝松委員)

—資料に沿って説明—

(飯島副座長)

枝松委員、ありがとうございました。

これから少し、皆さんとも協議をしていきたいなと思うのですが、その前に、

今ご発表いただいた件について何か確認とか質問とかあれば、先に、どうかと思うのですが、いかがでしょう。

ちょっとお聞きしたいのですが、今のカラーズさん、コロナがあって、あんまりこう活動的にどうということやっていたらどうかっていうか、ちょっと地域では見えにくいところがあるのですね。現実問題として、現場の感覚として大体どれぐらいの事業所が、具体的にどういった質問とか相談とかっていうのはあるのでしょうかね。

(枝松委員)

今日その数的な資料をお持ちしていないのですが、ただ基本的に言うと、ちょっとずつだけ増えてきている印象があります。こういうような場でお話させていただく機会が増えてきているっていうところと、自立支援協議会を含め、実はカラーズの方で今回いろいろ動かしていただいて、市町村の中に事業所連絡会であったりだとか、相談支援連絡会部会みたいなところがあって、その中で今みたいなお話をさせていただけると、実は困っている子がいてみたいなお話っていうところが少しずつ増えている感じです。割合的に言うとちょっとこれはわからないのですが、カラーズの仕事として、以前は直接支援がすごく多かったのも、つまり発達障害をお持ちの方から、こういう困り事があることが多かったのですが、最近だと結構市町村とのやりとりであったり、事業所さんとのやりとりが大分増えてきているかなっていうのが印象にあります。

(村上委員)

ちょっと本題からずれちゃうかもしれないけど、この会とは関係ある話かなと思ってちょっとお聞きしたいのですが、

インターフェースのところのサポートブックというところがあって、ちょっとこの辺、試行錯誤で今何年か始めているところなのですが、まだ3から4の間と、6から7の、ここって、実際ここが結構ポイントになるっていう感じなのです。その辺の実態みたいなところを教えていただけるとありがたいと

思います。ここ数年、いろんなところで作られているのだと思いますが、自分の見解っていうところで申し訳ないのですけども、すごく役に立つ部分だと思うのですが、サポートない状態って言い方おかしいですけど、書き込むのがめっちゃめっちゃハードル高くて、サポートブックを正しく支援者に繋がるように書き込める保護者の方は、多分言葉でも入れちゃっているよねみたいな現象がちよっと起こることが多い。本来であればちゃんと作っていただきたい保護者の方っていうのは、それすら書き込めないよねっていうところが起こりやすいと思います。だからそういうサポートブックだけではうまくいなくて、いろいろなところでの連携が大切だと思っています。

(枝松委員)

正式見解ってちょっとなかなか難しいところになります。何故かという、サポートブックは一時期ここ10年ぐらい15年ぐらいで、各市町村がすごくつくろう作ろうって動きはいっぱいあってですね。いろんなところで作られているのだと思います。ただ、今まで発達でやってきた自分の見解っていうところで申し訳ないのですけども、すごく役に立つというか部分だと思うのですが、サポートブック書き込むのがめっちゃめっちゃ高くって、それを保護者が中心なる動きなので。

もともと、非常時のリュックなんかに入れておいて、非常時にこういうことやってくれてれば、ぎりぎり行けるよっていうものから始まった流れだったと思うので、本来であればちゃんと作っていただきたい保護者の方っていうのは、それすら書き込めないよねっていうところが起こりやすい制度だなって思います。だからそういう意味でサポートブックだけではなく、保健師引き継ぎだったりなどの制度を一つ作っておくなど、つくば市さんの中でサポートブックがどういう位置付けになって、どういうメリットデメリットがあるのかと言うのはつくば市の規模数であったり、その体制の中で生まれてくるものかなって言うのは大事だと個人的には思います。いや、基本的に上手くいっているのはど

こでも全部引き継ぎは大事って考え方になっています。

連携インターフェースに関してなんですけれども、どこで、どれぐらいのものが必要かってそのお子さんによって違うので、これはあくまでも網羅的な内容って話になりますので、これに書いてあるので絶対これやってくださいみたいなお話だと、今までの僕の感覚だときっと上手くいかないだろうなみたいところかなっていうふうに思ったりはします。

(飯島副座長)

他はいかがでしょうか。よろしいですか。

県毎に発達障害者センターの役割が違うっていうのは、私知らないところで、とても勉強になりました。そうなったときに、いわば、「あい」と「カラーズ」さんが2ヶ所あるのですが役割は一緒ということですね。ちょっと大分前の話になるのですが、「あい」さんで発達検査をやってもらったことがありまして、ただいまお話伺っていると発達検査をしないようなお話だったのですが、その辺りもし補足あればお願いします。

(枝松委員)

年々、国からの意向も大分変わってきているかなっていうふうに思います。個人的な意見になるのですが、もともと「あい支援センター」の方で児童館と放課後等デイサービスっていう形で、昔は児童デイサービスだったと思うのですが、療育支援をやっていたと思うのですが、その中の流れで必要な場合には、二次スクリーニングは病院から依頼があった時はそこで検査をやっていることがあったと思います。今の流れで言うと、そういう動きは基本的にやらなくなっていて、だから診断保証はしないっていうような考えになっています。診断のある方に対して例えば事業所さんで、この説明等が必要であるなって思った時には、アセスメントを実施して支援に繋げるってことはできます。

(飯島副座長)

わかりましたありがとうございます。他に質問とか確認したいような話はな

いですか。

(原口委員)

ライフサポートセンターの原口です。

今のことに若干関係あるのかなと思うのですが、なかなか診断に結びつかないケースっていうか、グレーゾーンのケースが結構困るっていうか、診断がつかないと「カラーズ」さんには相談はできないってことでもないのですよね。

(枝松委員)

これもまたファジーな感じで申し訳ないのですが、疑いがあるのですって言ってもらえると、診断はないのだけでも自閉症の傾向が支援者から見てあって、それについてちょっとお話聞きたいっていう言い方をしていただければと思っています。そこで含みを持たせていただいて発達障害の概念自体はそのグレーゾーンと言われるようなスペクトラム概念を採用しているので、ここからここまでがという話じゃないのです。なので、ちょっと「カラーズ」さんに入ることはありませんかね？とお問い合わせいただくのが一番よろしいかなっていうふうには思います。

(原口委員)

もう1点、すいません。

診断がついていて、ご家族さんに対してのことなのですが、こういうふうになった方がいいのではないみたいなのは、何かアドバイスはくださるっていう感じでよろしいですか。

(枝松委員)

ありがとうございます。できるのですが、基本的に継続をしてカウンセリングであったり、発達支援の具体的な支援のご相談の施設ではないっていうような認識になります。できれば、支援者支援という枠組みの中でお話聞くことができるのだと思うのですが、一緒に話聞こうかみたいなお話でやっていただいた方がありがたいかなというふうに思っております。

(飯島副座長)

はい。よろしいでしょうか。

少しずつ協議に入っていければと思いますが、せっかく今日、枝松委員の方から、繋がらない要素を提示していただいているのですが、この場での受け付け、決着までは多分いかないと思うのですね。なので、今日は話題提供ということで、皆さんからもこういう事例を知っているとか、こういう困り事があるとか、特に地域のお子さんたちのことを、また逆に成人期からの障害の相談を受けて支援されていらっしゃると思うので、その方をさかのぼったら、やっぱりこんなお子さんだったようだなみたいな事例もあると思うのですが、そういう事例等ちょっといただいて、今日は共有する機会になればと思うのですが。マイクをまわしていつでもよろしいですか。

(金森委員)

支援に繋がらない支援についてということで、私も現場に行って、ものすごく気になっているところです。何が気になるかって言うと、発達障害の子たちって、小学校の間は保護者の方で頑張って放課後等デイサービスに通ってきますが、高学年になってくると、若干落ち着いてきたり、案外と社会性も身についてきて、家でゲームやったり、友達と遊ぶほうにシフトして、良い傾向なのですけどね。いわゆる発達障害の子たちって、中学校に入るとね、この子たちは一体どうなるのだろうってすごく気になる。要するに支援もそこで終わっちゃうのですね。相談支援がついてないケース結構多いです。多少親が積極的に動けばね、相談支援に繋いだり、通信だったり、いろいろあるのだけでも、その後どうなるのだろうっていうね、子供たちの将来。厳しい社会の中で果たしてうまくやっていくことができるのだろうかっていうことは、今すごい気になっています。やっぱり、ひきこもりなのではないかとか、悪い人たちにね、踏み込まれちゃうのではないかっていう心配がやっぱり出てくる。問題提起として、みんなで共有するって、すごく大事なことだなと思っています。

(新谷委員)

支援学校の新谷です。今日はありがとうございました。

すごくたくさん話したいのですが、2点、さっき、高校の話が出たので、当地域の発達障害のある子供たちが、この地域で高等学校を選択したときは、そこを受けてくださる学校と連携をとっているのですけれども、ある学校ではもう学校を挙げて、子供たちや保護者のニーズに応じながら、指導、それから進路指導していく。またある学校なんかは、特別支援コーディネーターを配置して、在学中もそうだけれども就労に関しても、相談に乗っていくというような支援をされているようです。ただ、話題に挙がっているようにそこに繋がらなかった子供っていうのが、今日の一番の話題だと思います。

2点目なののですけれども。発表でお話されたその次の想定は、その子供たちがどうなっていくのだろうっていう、心配があるというふうにお話を聞いていたのですけれども、私の経験上なののですけれども、いろんな学校に廻って、巡回相談で行って先生たちや保護者とお話する機会があるのですけれども、もう、学校行かなきゃならないっていうところの概念があって、そこで保護者も本人たちもすごく苦しんでいるので。いや、私がこういうこと言うとちょっと語弊があるかもしれないのですけれども、その子にとっての居場所というふうに考えたらどうでしょうか。学校が合わない、集団が合わない特性であれば、家庭等が居場所としてあげてもいいのではないかと思います。

あともう1点はどうやって社会との接点を作っていくかということだと思うのですけれども、そこも、本人が先ほどの事例であったと思うのですけれども望んでいないのに、親が接点を作ろうとするっていうのは本人の意見が尊重されていないので、そういう話があったときには、具体的に言うと本人の居場所はどこなのでしょうかねとか、社会の設定も含めて本人はどうしたいのでしょうねって、知的障害がないので皆さんお話ができるし認知が高いので、話し掛けると結構答えてくれると思うので、本当はどうしたいの？とか。そういうこと

を聞くのが一番大事で、そこを手がかりに、居場所とか接点とかを考えていったほうがいいのではないかと思います。

あともう一つ私の役割としては、医療、それから福祉行政とつなげていくコーディネーターの役割なので、その狭間の子たちは、行政の方に福祉とか医療と接点のない人たちは行政の役割になると思うので、1回窓口の方に、相談に行ったら何かいい情報があるかもしれませんねっていうふうなお話をさせていただくことがあります。もし、行政の方でそれに対する対応とか、お考えがあったら私も伺いたいなというふうにはちょっと思います。

(篠崎委員)

サポートプラザ篠崎です。

事業所としてはやっぱりこういう情報だとかっていうところは、共有した上でやってかないと、相手が何をするとこなのかとか、どういうことをするとこなのかを、本当に細かくわかっていかなきゃいけないなと思いました。相談員と話しているのですが、知られていると思うのは自分たちで、障害者相談員としてって言っているけど、実際、ご家族の方とか見たら、何をやってくれそうなのかっていうのは、思っているより知られていないと思う。だからそれをどういうふうに説明して、私たちは、何をあなたたちに提供できるのかをちゃんと説明してやっていかないといけないなっていうことを一つ思いました。

あとは、繋がってない子供さんたちっていうところに関して、先ほどひきこもりなどっていう話ありましたけども、実際ちょっと診断がついてないっていうことだと、例えば本当にどういうふうに吸い上げていくかっていうところだと思うのですね。あとは情報提供っていうのを徹底できていくと上手いくのではないかと考えました。以上です。

(武田委員)

武田です。お話ありがとうございました。

端的にいろいろ思うところあるのですが、福祉サービスを利用してるから

とか放課後等デイサービスを利用しているからとか、だから良いつてわけではないので。つくば市の協議会なのでつくば市でという言い方になってしまうのですが、地域でこういうお子さんたちをどう支えていくかっていうのを、どこが関わっている、関わっていないは抜きにして話を続けていかないとならないのだからということが分かりましたというか、痛感しましたという所感です。以上です。

(吉田委員)

つくば市社会福祉協議会吉田と申します。どうもありがとうございました。

私の事例でありましたのが、お子様が、学校での生活がちょっとなじまないというところで、診断を受けることになり、ASD という診断を受けたのですが、お母さんも自分のことが心配になって診断受けたらですね、同じ診断だったということで、お子様からサービスに繋がっていくということで、お母さんも今ヘルパーを利用しているという、逆の発想でもあるのかなというところもありました。あと、今受けている事例としまして、18 歳になったら3月で卒業する方は、これまで何のサービスとも繋がっていない方でした。で、その方就労やグループホームの利用も希望しているが、話が極論だなと思いながらずっと聞いていたのですが、そういったものの対応等も、また、「カラーズ」さんともちょっとご相談させていただこうと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上であります。

(原口委員)

ライフサポートセンターの原口です。

私もいろいろ考えるところがあったのですが、2点まとめたいと思います。一点は私どもも自殺対策の「よりそい相談支援センター」というのを県全域でやっていて、直接支援、間接支援っていうところのバランスはすごく悩むところがありまして、何かすぐに繋いじゃっては、ちょっと寄り添ってないかなとか。あんまりやり過ぎてしまうと、私が中心の支援でなく、私たちが中

心の支援にしなければいけないかなと。地域にどうやって新体制を作っていくかって、そのところはやっぱり、日々どういうふうにやっていくのがいいかなとか、地域の支援力っていうのは自殺対策の意味でも上げていかなければならないというところで、私が奮闘しております。

あともう一点はひきこもりの方の、こないだお話をさせていただいたりして家族会のところで、そこで一通りの支援、こんな支援ありますよっていうのですが、いやそもそもそこに繋がらないのですよっていう、その切実なお声がありまして。支援の枠組みはあるのだけど、やっぱり発達傾向がおありだったりとか、そういうところなのだろうけれども、そこに繋がらないのだよねっていう、なんかそういうのがあって、さっき武田さんがおっしゃっていたような、サービスに行けば手厚いけども、地域で支える力っていうかそこに繋がらなくても、何かしらで繋がって行って、先ほど接点を作るっていうことも、先生おっしゃっていましたがけれども、何かそういう接点をつくれるような地域での何か資源みたいなものがあると、またちょっと違ってくるのかなっていうことを感じています。ありがとうございました。

(中島委員)

教育局の中島と申します。今日はありがとうございました。

自分もこの間つい1月末につくば市じゃないところの先生方とお話をした中で、やっぱり小学校は中学校に十分引き継いでいくけれど、中学校から高校に引き継いで、私どもも、どこの高校に行ったかっていうところまでは学校からお伺いすることができるのですが。実際、高校で支援学級のないところでどうやって頑張っているのかとか、卒業ができているのかとか、そのあたりはなかなか私どもも情報を集めることがうまくできていないので、そのところを見据えて、本当に、就労まで頑張ってもらっている情報がうまく入るといよねっていう話を、つくば市じゃないところの学校の校長先生がしておられました。まさにつくばでも同じ話が出ていて、小学校の先生が中学校終わって

からこの後どうなるのかなって。漠然とした不安を抱きながら中学校に送っていて、金森さんからの話もありましたけど、高学年になって少し落ち着いてきて、中学校は支援学級を使わなくていいかなって思うけれど、やっぱり自分の取り扱いが、自分自身がうまくいかなくて、もやもやしたままでも高校は行きたいし、行って欲しいって言われているから、その道の世界に入っていく。担任が今まで2人、支援級の先生と通常級の先生がいて、あっちこっち相談していた自分がどうなっていくのかなっていうところが、やっぱり私どもの教育の部門でも分かっていないので。武田さんからもありましたけど、こういう話を続けていく意味っていうのがきっとあるのかなって、すぐに私たちもその先が見えないし、見る手段をきつと取り入れることができないのかもしれないのですけど、ただいろんなところにこれをお伝えしながら、子供たちが大人になっていく姿と一緒に共有できるようにしていかなければならないのだなっていうのを改めて感じました。

(井坂委員)

井坂です。今日はありがとうございました。

すごく衝撃的で、わかりやすく、勉強になりました。私もちょっとどんなふうにお話しているのかわからないのですけれども。私も子供が4人もいて、重症心身障害児事業所をやっているので結構相談されます。やっぱり幼少期で事業所に直接電話がかかってきたのは、6年やって2例で。ちょっといずれも、2歳児と3歳、確か3歳児の保護者から、つくば市内の事業所、片端から電話していましたね。言葉の遅れがあるのです、どうしたらいいですか？って言って。うちで何件目ですかって言ったら、上からずっと電話してきて、うちは重症心身障害児なので該当しないのだけれども。市役所に行きましたかって言ったのですけど、どうしていいかちょっと分からなかったって言ってました。おそらく、もしかして言葉が分からなかったのか、対応の仕方をどうしたらいいか分からなかったのか、ちょっと専門用語が出たので分からなかったか分から

ないのですけども。とりあえず言葉の遅れは、病院のリハビリとかそっちに繋いっていったらいいかなと思ったので、何か障害があるだろうなと思ったのですけど、病院を1回受診してみて、その時に言語聴覚士に会える病院がいいからってということでは、一応つないで、そのあともう一つ、訓練をいっぱいしたいからって言うので、言語聴覚士のいる事業所を紹介したりしたのだけでも。今思ったら飯島さんに相談すればよかったって思った。どこに相談していいかっていう、そういうのもよく分からなかったっていうね。

あとは、実際に保育所の園長先生から相談を受けて、それは診断受容があるので、スクールカウンセラーみたいのが保育園に廻っているからそこに行ったらいいのではないかと聞いたのだけれども、お母さんの診断受容はまだまだそんなはずないっていうところがあったので、先生もどうしていいかわからないっていうことで、とりあえずスクールカウンセラーの先生にお母さんが相談しながら、もっともっとうこういうことを知ってれば、ちゃんとしたところに繋がられたかなって、今反省しています。

あと、16歳17歳になった時に、うちの子ひきこもっちゃって。普通学校卒業して、高校も多かったのだけれども、高校からひきこもりですっていうような感じで。今は20歳になりました、19になりました、23になりましたって、そういう人たちがいるのですね。私はちょっと自分の出来ることしかできないから、お母さんに相談をして、そのお母さんに「うちは重症心身障害児です、ごく弱者を預かるうちの子たちって、生きることだけに、生きることだけで本当に生きることには精一杯生きている。できることを頑張っている子たちなのですよ。本当に。そういう子たちと出会うことによって、ちょっと刺激になるのかもしれないよ」っていうことで、結構そのお母さんの所のお子さんたちをうちに見学に来たりとか。

あと、実際にちょっと頑張って働かせてみました。週に1回でもいい、でも、まあ全然起きないです。朝起きられなくてもいいから夕方ちょっと来てアルバ

イトとか行って、できることをやらせてみたりっていうのが2人ぐらい居ましたね。

あとは出来そうな仕事をちょっと紹介してみたり。産業医の先生から相談があって、井坂さんのところで、見学させてもらえないかっていうことで。産業の先生の目的は、元気をもらいたいんだよみたいな感じなのですが、一応見学をしてもらって、弱者で生きることによって一生懸命子供たちと触れ合ってもらって、プラスアルファ私の元気をあげますよ、ぐらいの勢いで。何人か産業医の先生から紹介で、働けなくなっちゃうとか、退職しちゃうとか、親子関係がうまくいなくてうちの従業員のメンタルが大分弱っているなんていうようなケースの見学みたいなこと、やらせてもらっているのですが、私看護師でもあるので、心理とか、社会福祉士・精神保健福祉士とか皆さんも知識がたくさん持っていると思うのですが、そういう知識がないのでね。私のやっていることが間違っているかもしれないのですが、でもとりあえずは、何かそういう相談事があったらやっているのですが、今本当にもうちょっと勉強しなきゃいけないなっていうふうに思いました。そうすればもうちょっといい支援ができるかもしれないと思います。終わりです。はい。勉強します。

(根本委員)

多分ここにいる皆さんと全然立場が違うところでの話をさせていただきたいと思うのですが、私たちの所属している「かけはしネット」は医療的ケアを必要とする子供の親の会です。同じ福祉団体等連絡協議会という、親の会だったり当事者の団体さんが加入している、各団体さんの集まりで構成されている中から、私も今回、この協議会に参加させていただいているのですが、

まずお母さんの主張がやっぱり、強いってところが気になったところと、あとご本人さんたちが、どのように思っているのかがわからないというように、この話題提供にありましたけれども、本当に小学校中学校の誰かと、

必ず関われる、また支援者の方と繋がってられるっていう時期に、福祉とかサービスとか、次の教育とかっていうことでなく、どの人でも繋ぎをしていただきたいなと思っています。

それは同じ学年の形の中の保護者の皆さんでもそうですし、学校の中の上下のお母さんたちでもそうですし、全然該当しないかもしれないけどもこういった地域の家族会であったり、当事者団体さんであったり、そうすると、もしかするとそこで気づきがあったりだとか、同じクラス 30 人のクラスであれば 3 人以上いらっしゃるというような計算になると思うと、もしかすると、うちの子、あれ？みたいな、お母さん同士の気づきがあったりもするのかなと思ったりもして。本当にもっと、小学校に上がる前の段階で、お母さん自身がきっと誰とも繋がれなかったりだとか、お母さん自身も子育てにすごく困ってらっしゃったのじゃないのかなということを想像すると、その入学よりももっと前の段階から、どなたかと繋がれるような仕組みであったり、誰かが繋いでくれるような役割をしてくれるとよかったのかなと思います。

(村上委員)

つくば市福祉支援センターさくらの村上です。

ありがとうございました。児童発達支援事業で未就学っていうところなので、あんまりちょっと縁がない対象年齢ではあるのですが、一つ思ったことがあります。7、8年前に卒業された方が、中学生になって親子で挨拶に来られた。引っ越しをするのということで遠くに行っちゃうので、挨拶ってことで、いらっしゃったのです。お父様のお仕事の都合でというところでの話ではあったのですが、今のお子さんの生活状況とかにいろいろお聞きして見た感じは、本当によくここまで育ったなというか、感慨深いものがあったのですけれども、帰り際にぼそっと、なかなか今の学校で友達がいなくてっていう話が出て。当時その7、8年前以降、うちに来ていた時に、親子で仲の良かったあの人と仲良しで月1回会っているっていうような話は、それはそれですごくいい

いことなのだけれども、ただ、新しい環境作るっていうのは、なかなか難しいところなのだなと思います。何かその、友達を作るための療育的な支援はしてきたのかなどうかなみたいな。そういうところっていうのは、なかなか考えると難しい。何をすればいいんだみたいなところも、ハウツーみたいなこと、形で教えるのも確かにあるのだけれども、そういうだけでは決してないだろうしっていうと、何かそれで、今日の話をお聞きして、そのお母様の一つの思いとしては、引っ越しをして心機一転、またそこで環境が変わって出来ればいいなみたいなことも含めてってことで、それはそれでとても良い決断なのかもしれない、なんて思いはしたのですけれども。ちょっとそんな話で今日の話が重なり、難しいと思いながら聞いていました。

(飯島副座長)

皆さん貴重なご意見またご経験のお話をありがとうございました。

なかなか課題が多いなあというところをちょっと実感はした一方で、親御さんだけが先走っての相談が、子たちはどうしたってなるし、ご本人は困っていないというか、何かして欲しくない思春期も重なるので、なかなか本人に何したいって聞いても答えが返ってこないっていうことの方を経験しているので、お母さんが来ただけでも、相談に何か誰かに聞いただけでも、連絡をしただけでも良しとして、受けた人が、言葉だけではなく、どこかに相談をしてもらって次を探してあげるとするか、ちょっとまずはそこからなのかもしれないというのはちょっと感じました。

皆さんご存知でしたら知りたいのですが、診断名がつかないというお話があったのですが、この発達障害についての診断機関とか、そういうのって公表されていたりするのですか。ご存知ありますか。

(枝松委員)

「カラーズ」のホームページの中に、発達障害の診断を行っている医療機関リストっていうのがありまして、これは茨城県が4年前にアンケートをとって

発達障害診断できますか、というのを茨城県の医療機関にやったものをリスト化したものがございますので、まずはそちらの方を当たっていただくと良いと思います。ただこれが4年前なので、ちょっと今、改定のために新しくまとめている状況になってはいるのですけども。

今すごく、精神科とか発達障害関連の部分ですよ、あと児童思春期、児童発達みたいな部分ですごく混み合っているんで、うちの病院の規模だと、新患受け付けてないのですって言われちゃうことも多いようなのですけども、まずは、当たっていただくのが良いと思います。

(飯島副座長)

情報ありがとうございます。

井坂さんの話を伺って、言語聴覚士のいる病院受診したところで言語聴覚士に繋がらないと思うのです。ほぼ今の状況では。県が今そういう支援はしてくださると言うことなので、もうちょっと詳細になってくると、利用しやすくなると思います。

(金森委員)

大丈夫ですかね。私なんかもよく紹介するのですけどね。

調べたわけじゃないのだけど、つくば市でいうと、メディカルと記念病院と学園病院、ここは発達検査をして、言語聴覚士等の先生がいて、リハビリをしてくれるっていう、この三つが私の中で大きいです。ただ、結構いっぱいだとは聞いています。

(飯島副座長)

はい、ありがとうございます。

また、引き続きこども部会の議題の中の継続議題なのかなと思いますので、事務局の皆さんと協議をしながら、今後、また議論ができればなと思います。ありがとうございました。

4 報告事項

(飯島副座長)

それでは4の報告事項に移りたいと思います。

障害児サービス事業所連絡会の開催について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)：高谷

はい。では高谷の方から説明します。

障害児サービス事業所連絡会ですが、皆さんでずっと議論していただいたところで、令和7年の1月27日の月曜日、9時半から11時半の間に市の2階会議室の方で開催させていただきました。

当日の内容として、私の方から虐待の市内と県内の件数の状況の説明と「すてっぷの一とあゆむ」という、お子さんの支援経過とか生活の様子を記録していくようなものを、市の方で作っていますので、そちらの説明をさせていただきました。そのあとグループワークをしていただき、内容としては「現在、事業所内でどんなこと困っているのか」ということで話し合いをさせていただきました。

次に、アンケート資料2ですが、当日アンケートをとらせていただいた内容になっております。参加者は合計で42名です。そのうち37名の方にご回答いただきました。事業所からは36名と、自立支援協議会のプロジェクトのメンバー6名の方にはグループワークのファシリテーターとして参加していただきました。

「今日の研修はいかがでしたか」という質問に対して、とてもよかったよかったということで皆さんご回答いただいております。その選んだ理由として、自由記載の方で、「グループワークでの話がよかった」「他の事業者さんの話を聞けてよかった」「他の事業所と話す機会がないので、相談話しができた」というようなことで、グループワークが良かったとのご意見を多数いただいております。

次の2ページ目ですが「今日の研修で興味があった内容はどれですか」というところで、一番多いのが「グループワーク」と「事業所の困りごと」についてということで皆さんご回答いただいています。それぞれ選んだ理由は下に記載してあります。「グループワークで現場の大変さや困ったことを共感できた」

「悩みなどを共有できました」というようなご回答いただいています。また、その下に「あゆむ」についてのご意見もいただいております、「あゆむの仕様について知ることができた」とか「あゆむは保護者の方やお子さんにとっても強い味方になるのではないか」というようなことでご意見いただいています。

次3ページ目では、今後の研修について聞いています。参加しやすい日時や曜日を聞いていますが、皆さん参加されたのがこの10時半から12時っていう枠だったので、ほとんどの皆さんは、他の参加されてない方にも聞いてみないと、本来わからないところではありますが、平日の午前中は参加しやすいということでご回答いただいております。

次に、今後取り上げて欲しい研修内容について聞いています。「スキルアップに繋がるような研修」とか「人材育成」とか「職員募集」についてとか、様々出ているのですが、「困った行動についてのグループワーク」というよう意見も出ていました。

あと、4ページ目です。最後になるのですが、「今後こういうような集まる機会や連絡会があったら参加しますか」との問いかけには、「ぜひ参加したい」ということで、ほぼ皆さんが参加したいということでご回答いただいております。その選んだ理由の自由記載が下に記載されているのですが、「なかなか他の事業所の方と話す機会がないため」「他の事業所の方と交流がないのでこのような機会では情報交換したい」「事業所間の連携に繋がる場にしていきたい」ということで、やはり皆さんこのような交流の場を求めてらっしゃるのかなというところがよくわかったアンケート結果になっています。

次に、プロジェクトに実際参加された方から、グループワーク、当日の様子

を教えていただき、感想などお話ししていただけたらと思います。お願いします。

(吉田委員)

つくば市社会福祉協議会の吉田と申します。先ほど高谷さんの方からございましたが、つくば市障害児サービス事業所連絡会ということで、こども部会のプロジェクトとしまして飯島委員、金森委員、篠崎委員、武田委員、原口委員と私の方もグループワークの方に参加をさせていただきました。

当日、参加された方は、放課後等デイサービスの事業者の方や児童発達支援関係の事業者の方が大半だったかと思います。相談支援専門員として、なかなか事業所の悩みとかそういったことをお話しする機会がなく、利用者の方のご相談をお伺いするときはあったのですが、生の声を伺う機会は無かったものですので、すごく貴重な経験となりました。

皆さんからは、人材不足、人手不足というところがすごく困っているというお話もありましたし、当日のキャンセルが非常に多いという事業所がございました。利用者1名に対し職員が4名いるというような状況もありますということで、ちょっと驚いたところもありました。あと、事業所が手狭で全く活動できないなんてお話もありました。そういうところは移動も検討する必要があるかなと思いました。様々な職種の方が入られておりましたので、現場の意見ですが、運営の部分での意見というところで色々ありまして、事業がマンネリ化しているという行事に関しては、SNS活用したり他の事業所の内容を参考にしたらいいのじゃないですかという意見もありました。あとは、関係者の方からのお話、感想としまして、福祉関係の事業所の横の繋がりっていうのはなかなか無いと。医療に関しては横の繋がり結構多いのですけれども、福祉は圧倒的に少ないのでこういった機会に参加できてすごく良かったというご意見をいただきました。以上になります。

(飯島副座長)

ありがとうございました。申し訳ありません。時間も過ぎておりますが、何

か今の報告について、ご質問等は、委員の皆さんからありますか。

(根本委員)

はい。すいません時間過ぎているところでちなみになんですけれども、これ、初回ということで、どれぐらいの事業所さん、全体数としては、送られていてアナウンスはされていて、そのうち参加されたのが 36 名。36 事業所ということになるのかと思うのですけれども、どれぐらいの参加率というのですかね。どんな感じだったのかなと思ひまして。

(事務局) : 高谷

68 の事業所の方に参加の連絡をさせていただいて、もしかしたら私の手違いで漏れてしまっているところもあるかもしれないです。

(飯島副座長)

その他いかがですか。よろしいでしょうか。次回この会議はまたプロジェクトメンバーの方で、頻度については検討していくということでもいいでしょうか。

(事務局) : 福田室長

はい。事務局の方から、障害児のサービス時事業所の連絡会の今後の行く末のところにつきましては、とりあえずの自立支援協議会の枠、こども部会のプロジェクトチームの中で、いわゆる送り出し作業として、集まって何か研修で期待がある内容と、ニーズを拾ってあるという状況を掴んだところで、自立支援協議会としては、ある程度の役割としては終えるところなのかなと思っています。今後、どのように進めるかは市の方でもまた検討して、もちろんこういった、継続した研修場面は必要と認識しているので、どこの場面でも継続的に開催していきたいと考えています。

(飯島副座長)

ではまた、皆さんに報告があるということですので、お願いいたします。

それではその他、委員の皆様、また事務局の皆様の方から何かお伝えしたいこと等がありますでしょうか。大丈夫ですか。それでは、至らない議事進行で

時間を超過してしまい申し訳ございませんでしたが、これで議事の方の進行は終了とさせていただきます。事務局、お願いします。

（事務局）：福田室長

議事進行ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の会議の方はすべて終了となります。お疲れ様でございました。最後に駐車券の無料化手続きがまだの方は処理をしていただければと思います。長時間に渡りご議論いただきありがとうございました。お疲れ様でございました。

令和6年度つくば市障害者自立支援協議会

第2回 こども部会（専門部会1） 次第

日 時 令和7年2月5日(水)

9時30分～11時

場 所 つくば市役所 会議室 501

1 開 会

2 副座長あいさつ

3 協議事項

「支援につながっていない子どもへの支援について～話題提供～」

事例提供 COLORS つくば 枝松 慎次郎氏

4 報告事項

障害児サービス事業所連絡会の開催について

5 その他

6 閉 会

つくば市自立支援協議会
子ども部会2025/2/5



支援につながっていない子どもへの 支援について ～話題提供～



社会福祉法人同仁会
茨城県発達障害者支援センターCOLORSつくば
公認心理師・臨床心理士
枝松 慎次郎

本日の流れ

- 1：COLORSつくばの紹介
- 2：発達障害について
- 3：架空事例紹介

茨城県発達障害者支援センターCOLORSつくば

社会福祉法人 同仁会が茨城県から受託して実施

スタッフ：6名

センター長 1名

発達支援担当 2名

相談支援担当 2名

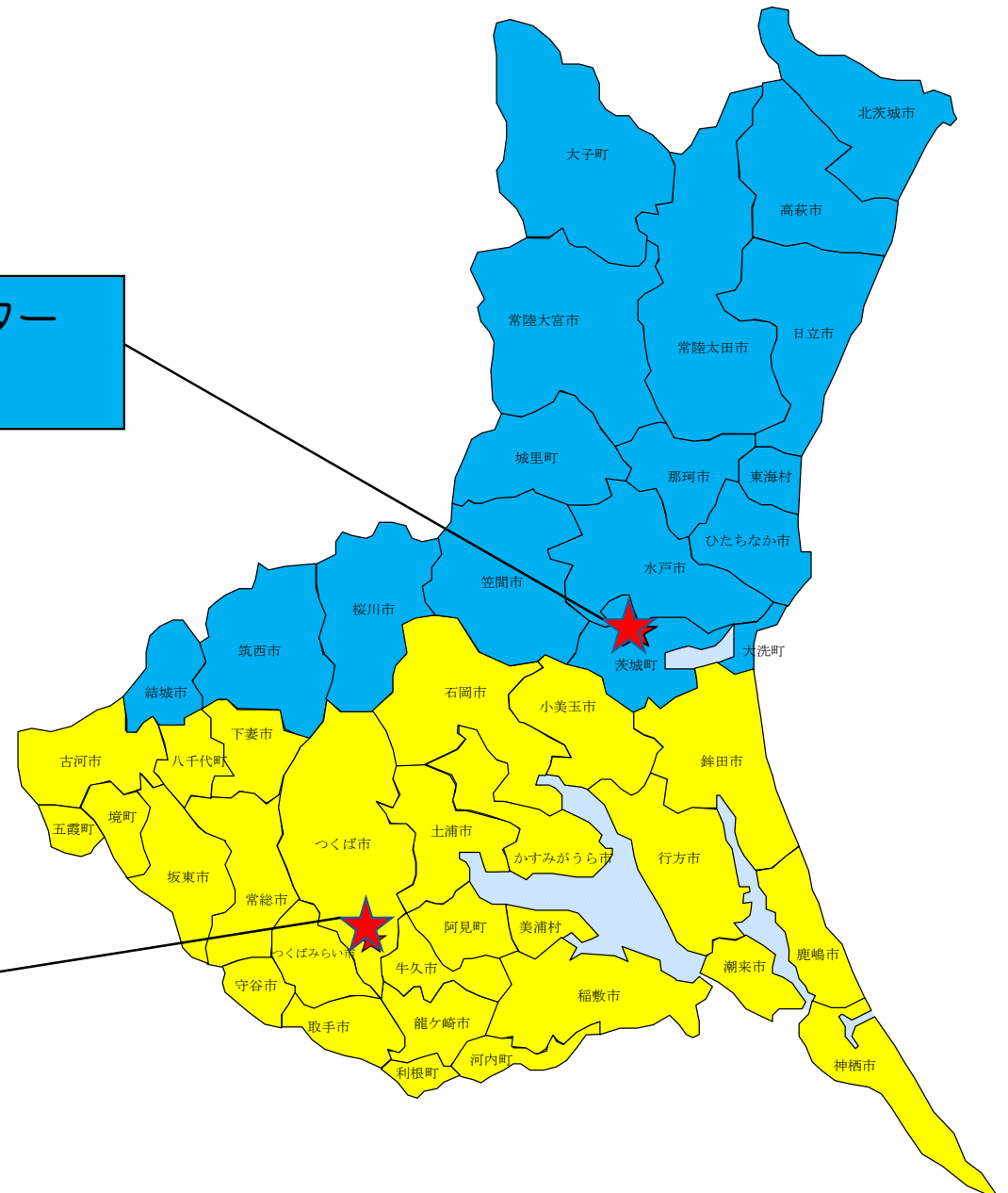
就労支援担当 1名



管轄区域

発達障害者支援センター
「あい」

発達障害者支援センター
「COLORSつくば」



茨城県発達障害者支援センター

センター名	発達障害者支援センター「あい」	発達障害者支援センター「COLORSつくば」
開設時期	平成17年2月1日	平成31年1月1日
場所	茨城町小幡北山2766-37 社会福祉法人梅の里内	つくば市高崎802-1 つくば同仁会子どもセンター内
電話	029-219-1222	029-875-3485
FAX番号	029-292-5535	029-875-3486
E-Mail	ainoie-siensenter@herb.ocn.ne.jp	colors@doujinkai.or.jp
事業受託法人	社会福祉法人 梅の里	社会福祉法人 同仁会
開設時間	月～金曜日9時00分～17時00分（祝祭日・年末年始は除く）	

詳細 茨城県障害福祉課HP（各センターのパンフレットがダウンロードできます）

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/shofuku/index.html>

発達障害者支援センターの代表的な役割

発達障害者支援センター
「COLORSつくば」

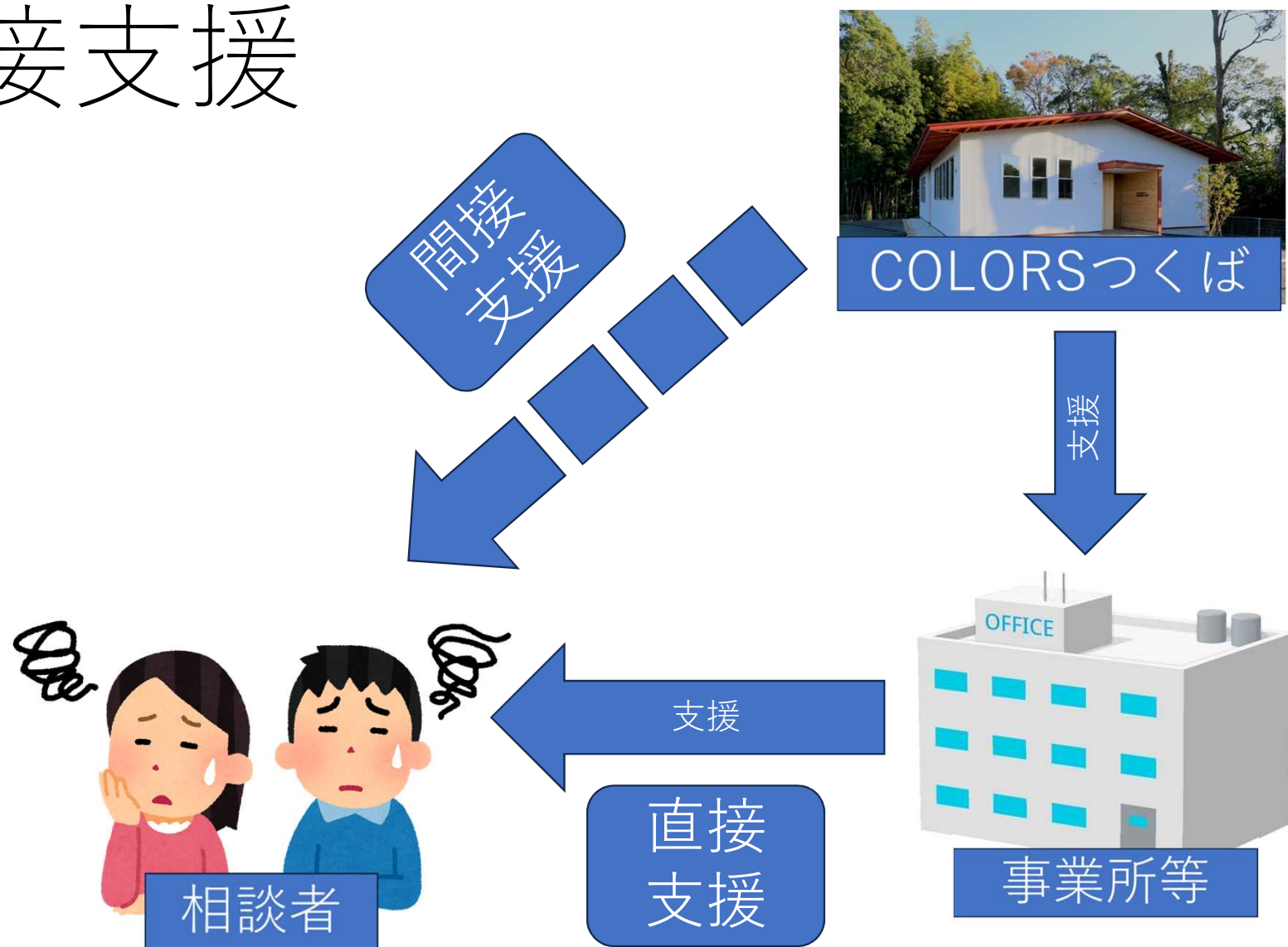


バックアップ

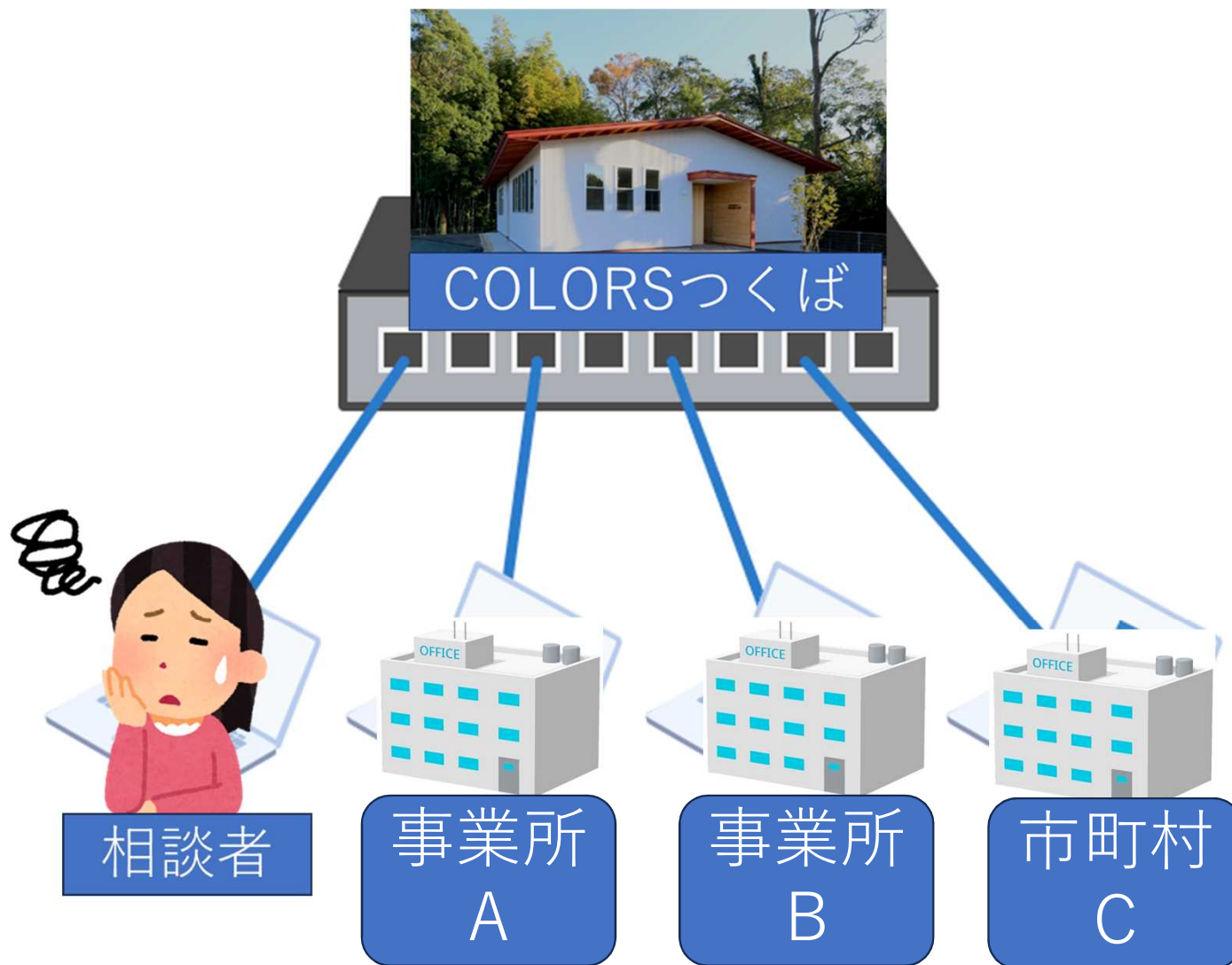
地域

事業所
支援者

間接支援



HUB機関としてのCOLORSつくば



発達障害者支援センターの主な業務

●相談支援●

「人との関わりがうまくいかない」「どこに相談すればいい？」など、日常生活でお困りの発達障害に関するご相談をお受けし、情報提供やアドバイス等をします。また、福祉制度やその利用方法、保健、医療、福祉、教育、労働などの関係機関への紹介も行います。

●発達支援●

「家庭ではどう対応したらいい？」「自分の障害特性に合った対応方法を知りたい」などの発達支援に関する相談に応じ、家庭などでの療育方法についてアドバイスします。また、必要に応じ、障害特性に応じた療育や教育、支援の具体的な方法について支援計画の作成や助言を関係機関と連携を図りながら行います。

●就労支援●

「働きたいけれど、何から始めていいかわからない」「今の職場で続けて働きたい」など仕事に関する支援を関係機関と連携を図りながら行います。

●普及・啓発活動●

「発達障害について、もっと知りたい」「必要なサポートについて考えたい」という方に対し、講演会やセミナー等を開催します。また関係機関からの要望に対し講師を派遣します。そのほか、発達障害への理解を社会に広めるために様々な活動を行います。

文部科学省が行った全国の公立小中学校で通常学級の約8万8千人を対象にした調査結果で”発達障害の可能性のある”とされた児童生徒の割合。（2022年発表）

8.8%

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2022/1421569_00005.htm

発達障害で押さえておきたいポイント (発達障害者支援法の要約から)

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害とそれにとつたものですよ。

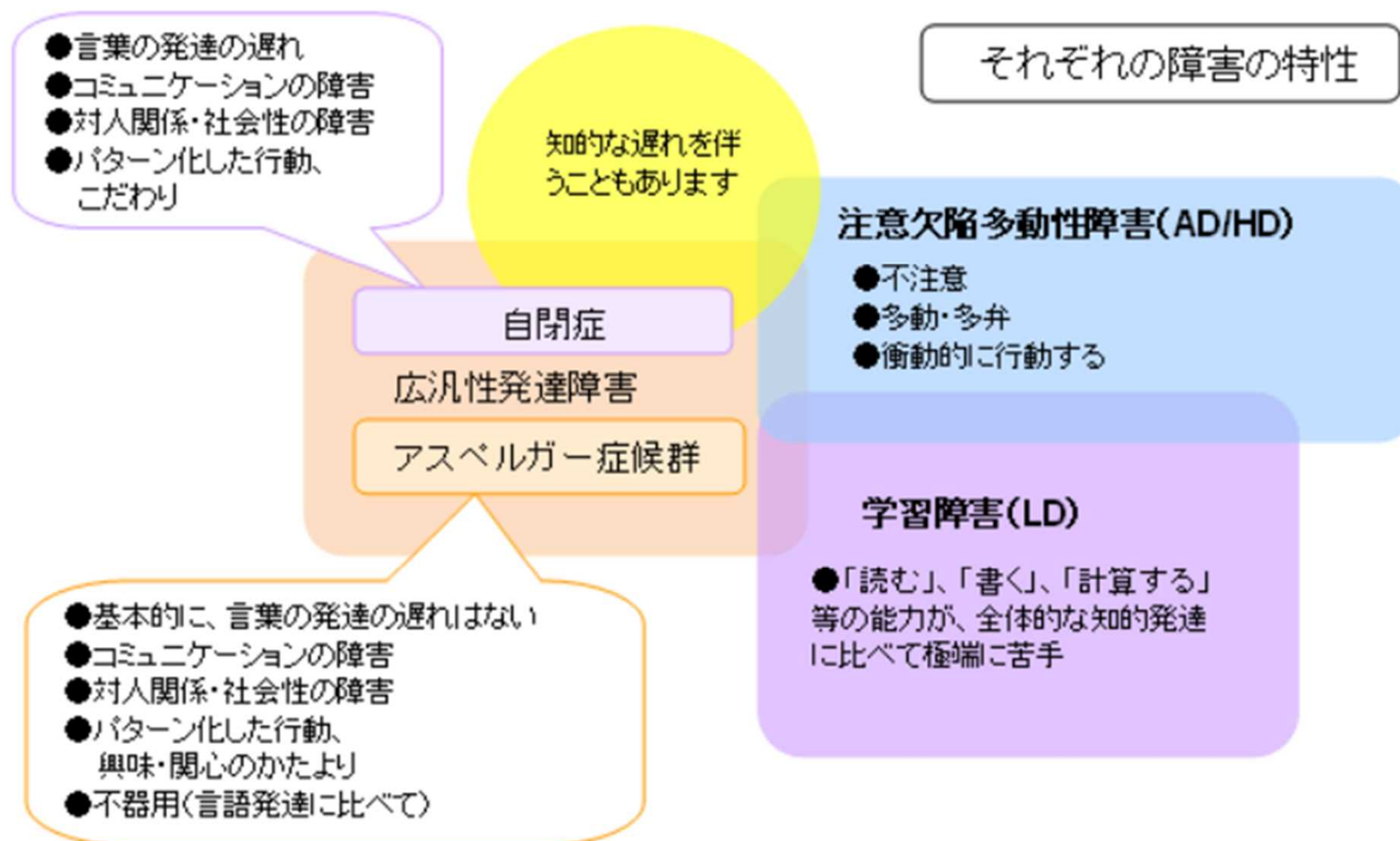
⇒似たようなタイプに分かれる。

1: **生まれつき**の脳の機能障害ですよ。
(育て方の問題ではありません)

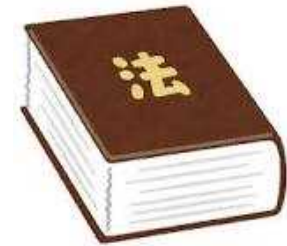


2: **困っている**人ですよ
(周り本人含めて)。

特性（障害）のタイプ



発達障害者支援法（2005年施行）



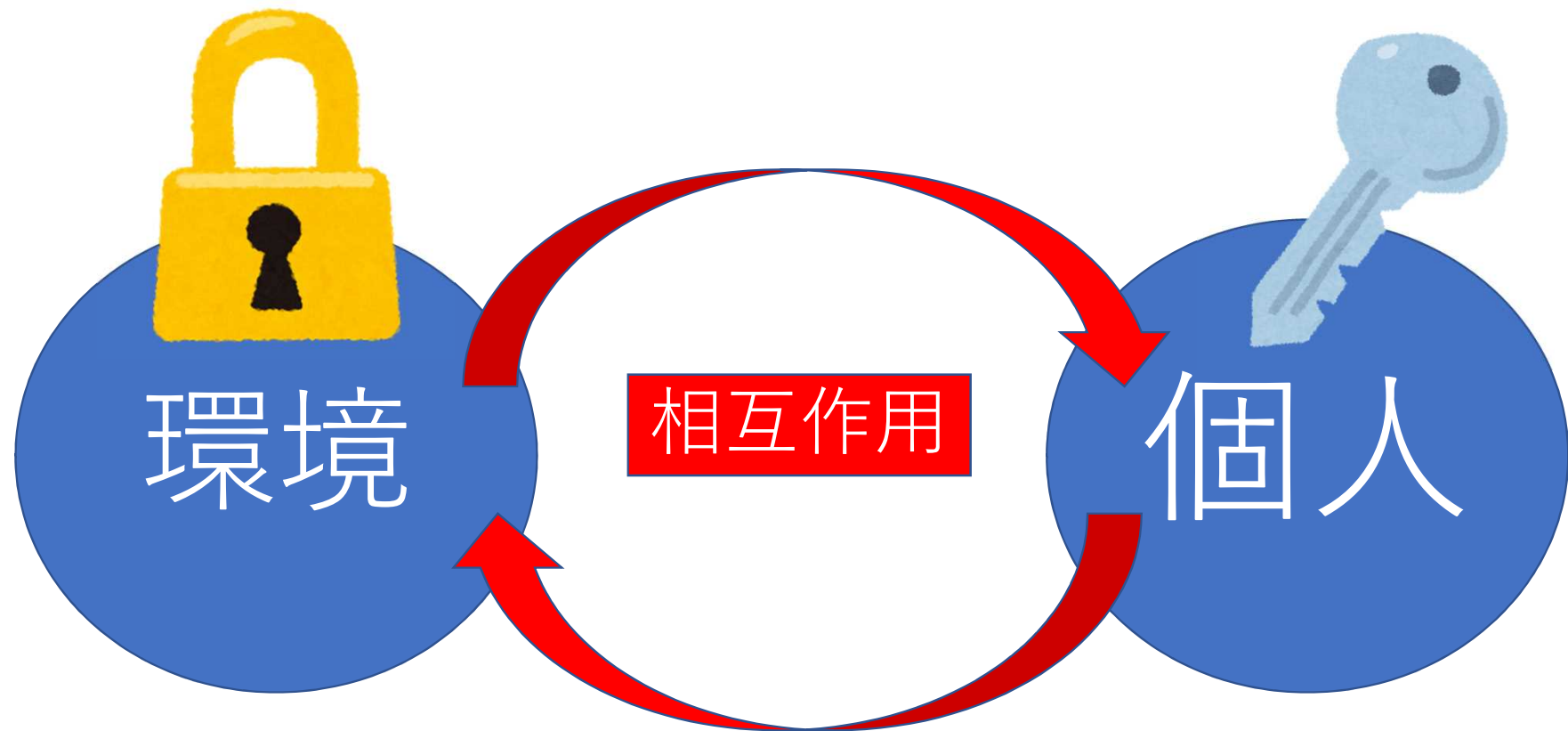
- 2016年の改正

⇒発達障害者支援は「社会的障壁の除去」であると追加。

社会的障壁：日常生活または社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念、その他一切のもの。

⇒特性そのものの矯正等をするのではなく、
特性を理解した上で環境調整等を行うことと明文化。

障害（困る）って何だろう??
鍵と鍵穴どっちを変える???



困りごと（障害）＝環境との個人の不一致で起きる。

仮想事例

発達障害のある子どもと家族を
支援するための**地域支援体制づくり**

ー Q-SACCS を使った 「地域診断」マニュアル ー



令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
「地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究」
(研究代表者：本田秀夫)

■Q-SACCS(青:事業化できている、赤:明確化が課題、緑:機能強化が課題)

<市町村名> <人口: 人> <年間出生: 人>	0~3歳	継続的 インターフェイス (引き継ぎ) SW1H	4~6歳	継続的 インターフェイス (引き継ぎ) SW1H	7~15歳
レベルⅠ (毎日) 日常生活水準	○乳幼児健診	△ △保育園・幼稚園 ・認定こども園 ○サポートブック ○保健師の引き継ぎ	△ △保育園・幼稚園 ・認定こども園 ○サポートブック ○保・幼・こ・小連絡会	△ △保育園・幼稚園 ・認定こども園 ○サポートブック ○保・幼・こ・小連絡会	○小学校・中学校
共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) SW1H	○新生児訪問 ○親子クラブ ○乳幼児こころの健康相談 ○要観察児教室 ○養育支援家庭訪問事業	○サポートブック ○保健師の引き継ぎ	△保育所等巡回相談事業 ○サポートブック ○保健師の引き継ぎ	△保育所等巡回相談事業 ○サポートブック ○保健師の引き継ぎ	○特別支援教育 コーディネーター △保育所等巡回相談事業
レベルⅡ (定期的) 専門療育的支援	○発達相談 ○発達支援相談 (県保健所)	○サポートブック	○発達障害専門相談 ○児童発達支援センター (県立) □児童発達支援事業所	○サポートブック ○教育支援委員会	○発達障害専門相談 ○特別支援学校 ○特別支援学級 ○通級指導教室 □放課後等デイサービス
共時的 インターフェイス (情報共有、紹介等) SW1H	○保健師の受診同行	△ △保育園・幼稚園 ・認定こども園 ○サポートブック ○保健師の引き継ぎ	○保健師の受診同行 ○サポートブック	△ △保育園・幼稚園 ・認定こども園 ○サポートブック ○保健師の引き継ぎ	△ △保育園・幼稚園 ・認定こども園 ○サポートブック ○保健師の引き継ぎ
レベルⅢ 医療的支援	□A病院<市内> ○B病院<市外>	・・・継続・・・	□A病院<市内> ○B病院<市外>	・・・継続・・・	□A病院<市内> ○B病院<市外>

*事業の全てを自治体職員で実施○、一部の機能を外部に委託△、全てを外部に委託□、を記入下さい。

■Q-SACCS(青:事業化できている、赤:明確化が課題、緑:機能強化が課題)

〈市町村名〉 〈人口: 人〉	0～3歳	継続的 インター フェイス (引き継ぎ) 5W1H	4～6歳	継続的 インター フェイス (引き継ぎ) 5W1H	7～15歳	継続的 インター フェイス (引き継ぎ) 5W1H	16～18歳	継続的 インター フェイス (引き継ぎ) 5W1H	19～35歳	継続的 インター フェイス (引き継ぎ) 5W1H	36歳～
レベルⅠ (毎日) 日常生活 水準											
共時的 インター フェイス (情報共有、 紹介等) 5W1H											
レベルⅡ (定期的) 専門療育的 支援											
共時的 インター フェイス (情報共有、 紹介等) 5W1H											
レベルⅢ 医療的支援	●●病院 ＜内・外＞	・継続・	●●病院 ＜内・外＞	・継続・	●●病院 ＜内・外＞	・継続・	●●病院 ＜内・外＞	・継続・	●●病院 ＜内・外＞	・継続・	●●病院 ＜内・外＞

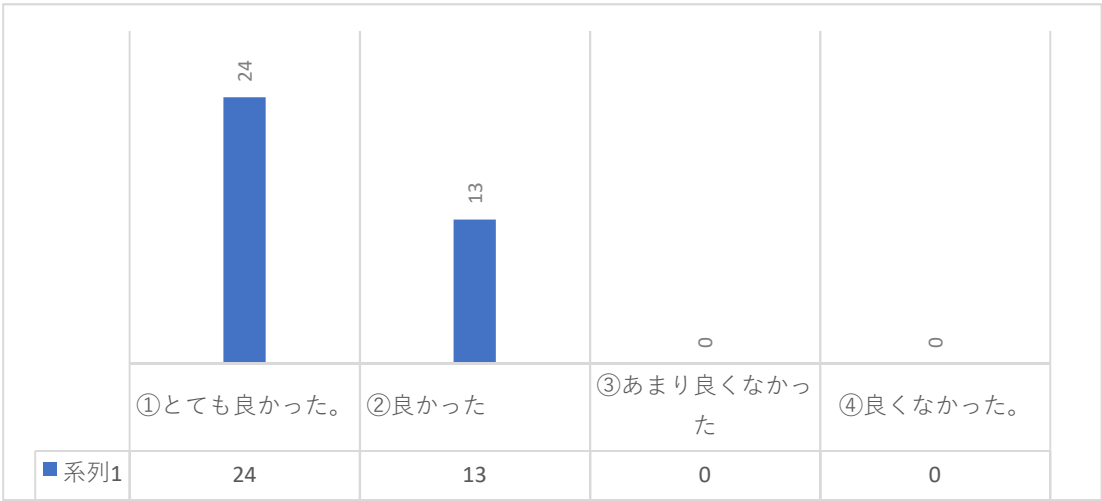
*事業の全てを自治体職員で実施○、一部の機能を外部に委託△、全てを外部に委託□、を記入下さい。

令和6年度 第1回つくば市障害児サービス事業所連絡会アンケート まとめ

参加者:42名 回答37名(事業所36名 プロジェクトメンバー6名)

1 今日の研修はいかがでしたか。

①とても良かった。	24
②良かった	13
③あまり良くなかった	0
④良くなかった。	0

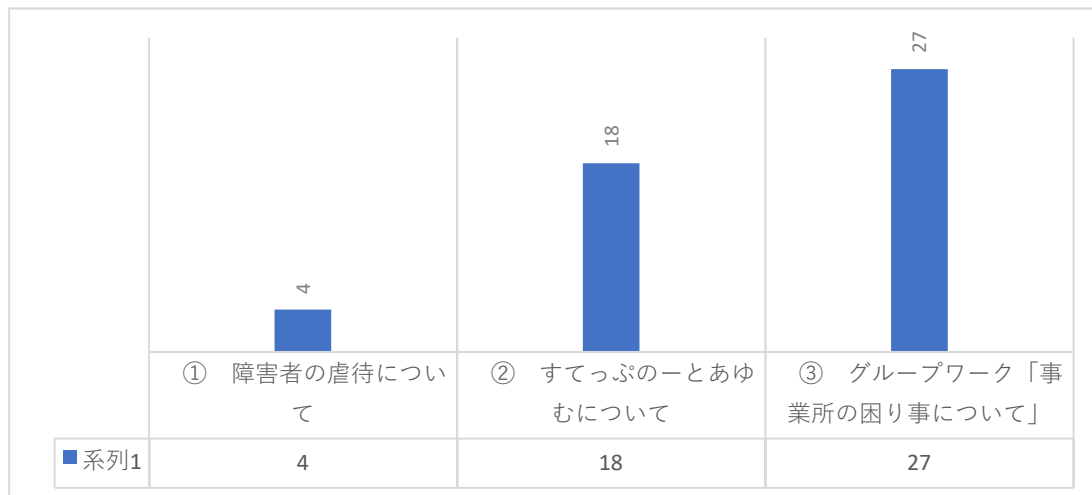


- ☆選んだ理由をお書きください。
- ・グループワークでの話がよかった。
 - ・他の事業所さんの話を聞いて良かった。 7
 - ・各事業所の困りごとを聞く機会となり学びが多かった。 3
 - ・ほかの事業所と話す機会がないので、相談・話ができ良かった。 4
 - ・知ることができて良かった。
 - ・他事業所と意見の交換や交流ができた。 3
 - ・定期的に連絡会の開催を希望します。
 - ・オンラインのハイブリット開催の検討もお願いします。
 - ・アドバイスを聞ける時間がもう少し欲しかった。
 - ・他事業所の方々と仲良くなれました。
 - ・すてっぷのーと「あゆむ」の詳しい説明が聞けた。 4
 - ・知らない情報が得られた。
 - ・多くの事業所と顔を合わせる機会をいただいて、ありがたかった。 2
 - ・他の事業所の困りごとを聞くことで、自身の事業所の対応を考えられると思った。
 - ・虐待の事例を交えつつ、支援場面の工夫などの詳しい研修を頂けると嬉しい。

資料 2

2 今日の研修で興味があった内容はどれでしたか（複数回答）

- | | |
|------------------------|----|
| ① 障害者の虐待について | 4 |
| ② すてっぷのーとあゆむについて | 18 |
| ③ グループワーク「事業所の困り事について」 | 27 |



☆選んだ理由をお書きください。

- ・つくば市の現状を知ることが出来た。
- ・ファシリテーターの人がいらしゃった事で話しやすかった。
- ・現場の大変さ、困ったことを共感できた 4
- ・具体的な説明を聞いてイメージしやすかった。
- ・様々な困りごとについてお聞きしました。 2
- ・人手不足は共通の課題だと思った。
- ・困りごとを聞くことで、自事業所の事を考え直す機会となった。
- ・事業所の中での困りごとは共通していることが多いと改めて思った。
- ・悩むことは同じことありますが、皆同じ悩みで悩んでいることは励みになる。
- ・事業所によって悩みも取り組みも様々であることを知ることが出来た。 2
- ・もっとグループワークで話したかった。
- ・管理者の想いや悩みを共有する場となった。
- ・年金をもらうときに、とても悩んだそうです。
- ・関係機関との情報共有に苦慮していたため活用していきたい。
- ・もっとこうゆう機会に参加したいと思いました。
- ・異なる業態の事業所との意見交換は新鮮でした。有意義だった。 3
- ・他事業所の意見を聞いた。
- ・課題を知ることが出来た。
- ・「あゆむ」の使用について知ることが出来た。 4
- ・「あゆむ」は保護者の方、子どもにとって強い味方になると思います。
- ・「あゆむ」について事業所を利用している保護者さんに、「複数の事業所を利用しているから子どものことを記入するのが大変」という意見を聞いていたので、「あゆむ」の活用は無理かと思っていましたが、ヒントを頂きました。
- ・つくば市にこのようなツールがあることを初めて知りました。保護者と連携して活用できるよう、検討してみたいと思っています。
- ・保護者様より「あゆむ」についてお話があったり、他事業所との連携にも必要であるため、書き方や手立てについて知ることが出来た。
- ・「あゆむ」を今後の利用者さんに紹介して行きたい。
- ・似たようなアセスメントシートを作成していたので、活用方法に興味がありました。

資料 2

3 今後の研修についてお尋ねします。

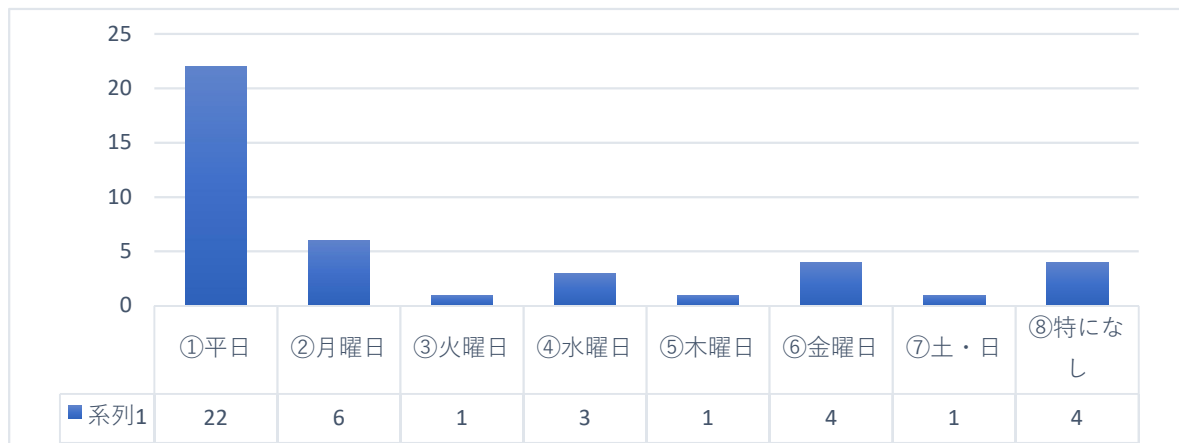
(1) 参加しやすい時間帯や曜日について教えてください。(複数回答)

時間:	①10:30~12:00	32
	②13:00~14:30	3
	③16:00~17:15	5
	④特になし	2

※ほとんどの参加者が
午前中の参加希望

曜日:	①平日	22
	②月曜日	6
	③火曜日	1
	④水曜日	3
	⑤木曜日	1
	⑥金曜日	4
	⑦土・日	1
	⑧特になし	4

※ほとんどの参加者が
平日を希望



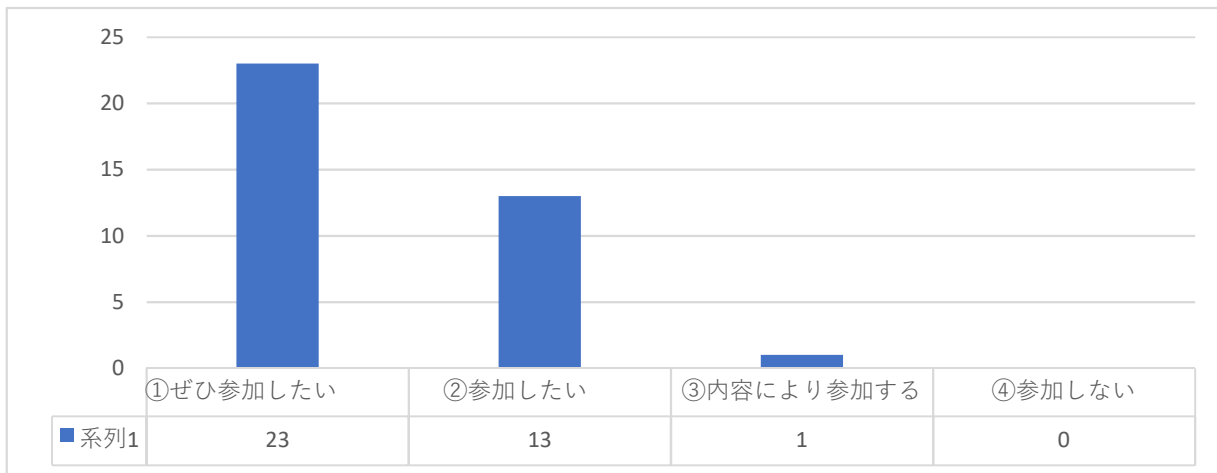
(2) 今後取り上げてほしい研修等があったらお書きください。(複数回答)

- ・スキルアップにつながる研修(対面やGWを用いて)
- ・管理者、経営者に対しての現場の困りごとの解決のための勉強会
- ・人材育成 2
- ・職員募集 2
- ・5領域について詳しく ※
- ・てんかん等病気の研修
- ・事業連携が進んでいる自治体の事例の共有
- ・オンライン(オンデマンド)の指導者研修(SST/言語)
- ・法律が変わった時の対応
- ・つくば市の障害児童福祉の現状(動向など)
- ・防災に関する研修
- ・幼稚園や保育園、学校との連携について
- ・療育プログラムについて
- ・虐待の研修(他事業所の内容等)
- ・困った行動についてのグループワーク 2
- ・もっと多くの事業所さんとの関りがもちたい。
- ・ペアレントトレーニング
- ・明日の療育につながるような内容

資料 2

(3) 事業所の人が集まる機会(連絡会等)があったら参加しますか

①ぜひ参加したい	23
②参加したい	13
③内容により参加する	1
④参加しない	0



☆選んだ理由をお書きください。

- ・中々他の事業所の方と話す機会がないため 3
- ・他事業所の方との交流がないので、このような機会では情報交換等していきたい。 3
- ・このような機会があればぜひ参加させて頂きたい。
- ・勉強になります。
- ・事業所間連携につながる場にしていきたい。 2
- ・face to faceの顔の見える関係から連携へと発展させるため
- ・発表ではなく、その時間にグループでの時間を多く取ってほしい。
- ・管理者として、指導者として意見が聞けるので
- ・知見を深めたい。
- ・管理者である自分のみならず、いろんな職員が外部の人と関わる機会を増やしていきたいと思っています。
- ・他の事業所を併用されているお子さんもいることから、他事業所との連携のきっかけ作りにもなるため
- ・交流の機会を活用したいです。
- ・意見交換の場となったため 2
- ・具体的な指導等も頂けると嬉しいです。
- ・ほかの皆さんがどのような温度で今事業にあたっておられるかを知りたい。
- ・5領域の評価等指導以外の仕事が忙しく時間がとりにくい ※

※ 個別支援計画の領域